

挨拶

東レ科学振興会 会長 日 覺 昭 廣



本日はご多忙の中、文部科学省研究振興局局長の塩見みづ枝様、日本学士院幹事の野依良治様をはじめ、関係各位のご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、令和元年度および令和2年度の贈呈式は中止し、令和3年度、4年度は規模を縮小して開催しました。令和5年度になりコロナ禍以前と同じ規模で開催し、本年度も無事開催できましたことに対し、皆様のご協力とご理解に感謝申し上げます。

東レ科学振興会は、我が国の繁栄の基盤は科学技術にあるとの考えに立ち、科学技術の振興を図ることを目的として、今から65年前の1960年に設立されました。東レ科学振興会は設立当時から1億円以上の研究助成を始めるかわら、先生方の国際会議の開催、あるいは研究者の方々の海外渡航、そういった様々な研究活動や理科教育活動に対して支援を行ってまいりました。ご承知のとおり、東レ科学技術賞、東レ科学技術研究助成の受賞者の中から、これまで5名の先生方がノーベル賞を受賞しておられます。江崎玲於奈博士、野依良治博士、山中伸弥博士、故赤崎勇博士、本庶佑博士の方々です。この半世紀以上にわたりまして、私どもの社会貢献事業が滞りなく継続できておりますのは、ひとえに、関係の皆様方の温かいご指導とご支援の賜物でございます。ここに改めて深く感謝申し上げます。

さて、今年度の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成につきましては、学協会あるいは推薦人の先生方から多数の候補者のご推薦を頂きまして、相原博昭先生を委員長とする選考委員会で、公正かつ厳正な選考が行われました。財団の理事会は、選考委員会の答申通り、東レ科学技術賞を永長直人博士および胡桃坂仁志博士に、また、東レ科学技術研究助成につきましては、11件の研究に対しまして、総額1億3,000万円の研究助成金を贈呈することに決定いたしました。科学技術賞を受賞されますお二人の先生ならびに令夫人および関係者の皆様に対しまして、心からお祝いを申し上げます。また、研究助成を受けられます若い先生方には、今後とも立派な研究成果を挙げられますよう大いに期待申し上げたいと思います。

次に、当財団は、中学校・高等学校等の現場で創意工夫をして理科教育に取り組んでおられる先生方の顕彰事業を行っております。この東レ理科教育賞の選考に当たりましては、豊田真司先生を委員長とする審査委員会で、公正かつ厳正な審査が行われました。私ども理事会は、審査委員会の答申通り、東レ理科教育賞文部科学大臣賞を末谷健志先生に、そして東レ理科教育賞を2人の先生方に、さらに、佳作3件と奨励作3件を贈呈することを決定いたしました。また、令和2年度に新設した理科教育賞・企画賞については、8名の先生方に賞を贈呈することを決定しました。理科教育賞を受賞されます3人の先生方ならびにご家族に対しまして、また、佳作、奨励作を受賞されます6人の先生方に、そして企画賞を受賞されます8人の先生方に、心からお祝いを申し上げます。今後とも一層のご研鑽を積み、我が国の将来を担う青少年の育成にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

選考、審査の労をとっていただきました委員の先生方には、この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。

1993年から1994年にかけて、我が国産業界が様々な事業活動を展開しております東南アジアの地に、東レ株式会社が約6億円を拠出して、インドネシア東レ科学振興財団、マレーシア東レ科学振興財団、タイ東レ科学振興財団を設立しました。これらの財団は私どもの日本の財団と同じように、科学技術研究の助成事業、そして科学技術賞・理科教育賞といった顕彰事業を行っております。2024年度の賞・助成金総額は約4,400万円になり、各国の科学技術分野の研究開発の発展に重要な役割を果たしていると言われていています。私どもの財団は、この3ヶ国の財団に募集・選考を委嘱し、今年度も26件の研究に研究助成金を贈呈しました。

約4年にわたり生活や仕事のみならずあらゆる分野に多くの影響を及ぼしてきました新型コロナウイルス禍を経て、本格的なポストコロナ時代に入り、社会的・経済的に大きな変革期を迎えています。

また、2024年のノーベル物理学賞が人工ニューラルネットワークによる機械学習の基礎技術の発明に関するものであり、ノーベル化学賞が計算によるタンパク質の設計と構造予測に関するものであったように、科学技術の世界も大きく変わってきています。

世界共通の課題である大規模な気候変動、エネルギー問題、健康問題などに加え、日本が直面している人口減少・少子高齢化への対応などの課題も山積しています。資源に乏しい我が国が心身ともに豊かな生活を維持し成長・発展を続けていくためには、今後とも新しい科学技術イノベーションによって世界をリードし続けることが不可欠です。その意味で、優れた科学技術の成果を生み出すための基礎研究の重要性はますます高まっていると考えます。

私ども東レ科学振興会は、これからも、研究助成事業そして研究者や先生方の顕彰事業を通じまして、日本の基礎科学ならびに理科教育の発展・振興に貢献してまいりたいと考えております。皆様方におかれましては、どうか引き続きのご理解、ご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

今年度も、東レグループを代表して、東レ株式会社から、合計2億1,800万円の拠出をさせていただいております。東レグループ創立以来脈々と受け継がれている社会への貢献という高い志に、改めて敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

以上をもちまして私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴誠にありがとうございました。